

1995年7月6日に長良川河口堰が運用開始されて30年の月日が過ぎました。

長良川も伊勢湾も地球環境も、私たちの社会も変わりました。これからの長良川河口堰をみんなで考えてみませんか？

2025年 **7月6日** (日)

13:00~16:00 (開場 12:00)

岐阜県図書館 多目的ホール

岐阜市宇佐 4-2-1 tel 058-275-5111

(入場料500円・予約不要)

シンポジウム 長良川河口堰運用**30**年

—よみがえれ長良川実行委員会報告—

長良川河口堰の歴史を振り返る/富樫幸一 韓国ナクトンガン河口堰視察/武藤仁

● **報告「長良川河口堰運用30年」** 水資源機構中部支社 (要請中)

● **シンポジウム** コーディネータ **亀井浩次** NPO 法人藤前干潟を守る会理事長

パネラー **宮本博司** 元長良川河口堰建設事務所長

森誠一 岐阜協立大学・地域創生研究所所長

三石朱美 元国連生物多様性の10年市民ネットワーク

蔵治光一郎 東京大学大学院教授

主催/よみがえれ長良川実行委員会

(連絡先) 090-1284-1298 武藤



なごや環境大学

登壇者のプロフィール



1952年生れ。京都市出身。1978年建設省入省以来河川行政に従事。1994年長良川河口堰建設事務所長。1995年本省開発課で河川法改正に取り組み、1999年淀川事務所長として淀川流域委員会を立ち上げる。2006年国交省防災課長を辞し、翌年淀川流域委員会委員長に就任。現在は、吉野杉で風呂桶、ワインクーラー、お櫃等を手作りする桶樽職人。

宮本 博司 さん

岐阜協立大学地域創生研究所所長・特任教授、越前大野市「イトヨの里」館長。理学博士。専門は進化生態学、社会行動学。第12回生態学琵琶湖賞受賞。国土交通大学校などでも講義。日本魚類学会自然保護委員会委員長、生き物文化誌学会理事など、また国・県市町の各行政の委員を務める。自然が加速的に人工化される現状のなかで合理的・効果的な環境保全を志向し、多様な視点を網羅し活動中。近刊『河川ダイナミクスの生態学』（編者）。



森 誠一 さん



三石 朱美 さん

2010年生物多様性COP10を契機に「国連生物多様性の10年市民ネットワーク」の運営委員として2022年のCOP15まで、関連する国際会議に継続して参加。世界中の先住民や地域コミュニティの代表者と共に、生物多様性が地域の文化や生活にもかけがえのない影響をもたらす、尊重されるべきものであると発信。一般社団法人JELF（日本環境法律家連盟）事務局に勤務し、沖縄をはじめ、全国各地で環境訴訟、環境問題に取り組む市民と弁護士との交流を深めるべく活動している。韓国4大河川事業やナクトンガン河口堰の視察にも参加。

東京大学大学院農学生命科学研究科教授。1965年東京都生まれ。博士（農学）。専門は森林学、水循環学。1989年東京大学農学部林学科卒業。同大学院博士課程在学中、青年海外協力隊員としてマレーシア・サバ州森林研究所に勤務。愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員、矢作川流域圏懇談会山部会座長、水循環基本法フォローアップ委員会座長などを務める。編書に『長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす』（2024年、農文協）、著書に『森の「恵み」は幻想か 科学者が考える森と人の関係』（2012年、化学同人）、『「森と水」の関係を解き明かす 現場からのメッセージ』（2010年、全林協）など。

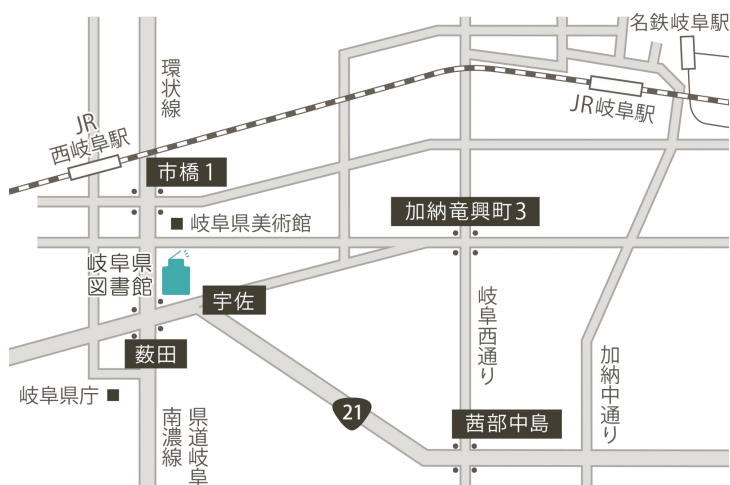


藏治 光一郎 さん



特定非営利活動法人藤前干潟を守る会理事長／よみがえれ長良川実行委員会共同代表
1960年名古屋出身（64歳）1990年ごろより各地の自然保護運動に参加し、長良川河口堰反対運動にはカヌーデモに加わる。地元の問題として藤前干潟保全問題に取り組み、2013年より代表、現在に至る。専門領域は環境教育・環境文学・環境思想。世界各地のロングトレイルを歩く。

亀井 浩次 さん



岐阜県図書館への交通アクセス

【駐車場】岐阜県図書館の周辺に岐阜県美術館と共用で7ヶ所あり、あわせて446台の駐車が可能です。すべて無料です。

【JR西岐阜駅（南口）より】徒歩14分
「西ぎふ・くるくるバス」『県図書館・美術館』バス停下車すぐ

【名鉄岐阜駅・JR岐阜駅より】岐阜バス「鏡島市橋線」「市橋」行に乗車、『県美術館』バス停下車 徒歩3分